

共働-ケヤキ-

～最適な作業空間を探求できるコワーキングスペースの設計～

大竹研究室
01812164 三森 公威

1. はじめに

コワーキングとは個人事業主や起業家、在宅勤務が許されている人などの場所に縛りが無いワークスタイルのことである。

コワーキングスペースとはそれらの人々を支える共同型オフィスのことを指し、2010年ごろに海外から日本へ広まった。単なる作業場にとどまらず、交流やコミュニティ形成を低コストで利用できる施設である。大きな机とカウンターをメインとしそれらに会議室やフリースペースを配置し、仕事ができるように整えた空間が主流である。

新型コロナウイルスの影響や働き方改革により、在宅ワーク、遠隔授業、フリーランス職が増加している。家と仕事場・作業場の境界が曖昧になり、家においても心身が休まらない状況や、個人の空間が確保できず集中できないことから、コワーキングスペースの需要が高まっている。

2. 計画地「鴻巣市吹上」

計画地は埼玉県鴻巣市吹上駅周辺のL字の敷地である。大宮・東京方面から来る下り電車に乗った際、本計画地は視界に入る。

周辺には吹上団地に住む社会人や通学のために下宿する大学生が多く暮らしている。駅周辺の敷地のため周辺環境にも恵まれ、近隣には図書館やコンビニ、スーパーなどが多く存在する。

3. ケヤキ×コワーキングスペース

1) 建築モチーフ「ケヤキ」

敷地が鴻巣市のためシンボルである「ケヤキ」を建築のモチーフに選定した。

既存の樹木をモチーフにした建築は主に立面方向に樹木の様相を見せる。本研究はモチーフのケヤキを倒し平面方向に展開することで、L字の敷地を活かす。根や幹、枝の流れを通路や家具の形として模倣することでよりケヤキらしさを表現していく。

2) コンセプト「最適な作業空間の探求」

樹木が根や枝を伸ばして成長するように利用者が作業空間を探しに行ける空間を計画する。

根から幹、枝に入り込んだ人々は養分のようにそれぞれ集中できる空間を探す。枝に葉や実をつけるように個人個人で最適な作業空間を見つける。

また人々の集中できる空間や環境は机やいすの高さ、姿勢、明るさなどによって異なる。そのため作業空間は人の密度や広さ、明るさなどの選択肢を多くするように計画する。

3) 根「地域とのつながり」

根は養分を地中などから吸収する。根に当たる部分は利用者を取り入れる空間となるため、南側の駅前通りに面した所に配置する。そのため地域とのつながりや集客を目的とし、地域の人や休憩時に使用できるカフェやラウンジにあたる空間を設計する。

4) 幹「作業空間への通過点」

幹は養分の通り道となる。幹に当たる部分は根からの養分を枝に送るための空間とする。そこで根（カフェ）から入り込んだ利用者を枝（作業空間）への通過点として人の流れやすい環境を作る。コワーキングスペースとしての施設に必要なロッカー室、トイレ等を配置することで、枝への通過点となると共に作業の準備が可能な導線として計画する。

5) 枝「作業空間の探求」

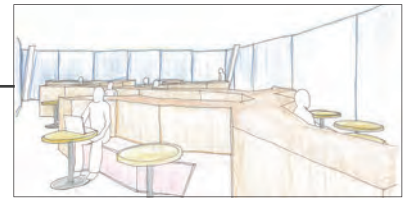
枝は葉や実をつけ新しい養分を取り入れ、分岐してより大きくなっていく。枝に当たる部分は利用者が新しい実や葉となるような作業空間とし、人々が利用することでより豊かなケヤキとなる。

作業姿勢や机の高さ、明るさなどの選択肢を増やすことで利用者にとって最適な空間を探求できる。この枝の空間は大きく4つに分類された作業環境で構成される。スキップフロアを用いて枝のまとまりを表現し、躯体や柱も枝の流れを意識して計画する。



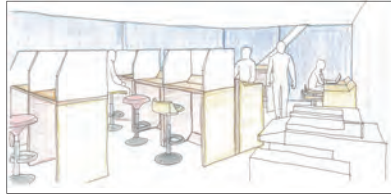
自由3

スタンドデスクが枝状に配置された空間。
立ったまま作業が可能でそれぞれ高さを50ずつ変化させ、利用者の身長に合わせて利用できる。



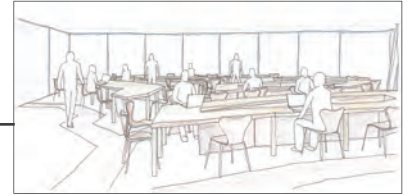
普遍2

一般的なコワーキングスペースにみられる机とソファがメインの空間。枝を表現したカウンターにソファを配置した。



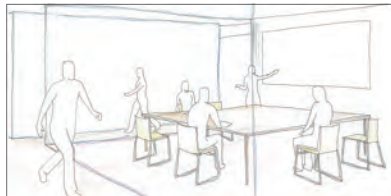
自由2

ツールと高めのデスクで構成された暗めの空間。
天井が低めでなおかつ個人個人の境界を明確に分けており、小スペースで作業に集中することができる。



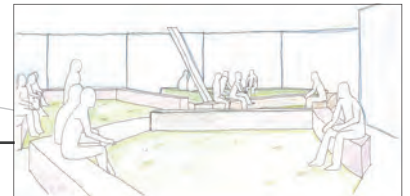
普遍1

一般的なコワーキングスペースにみられる机と椅子がメインの空間。枝を模した通路とし、家具の配置によって利用者が葉のように着席するように構成した。



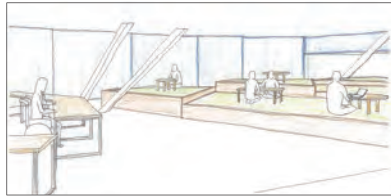
会議

規模の違う会議室を配置した空間。
会議やビジネスの場として利用者が使用できる。枝を通路とし、隙間に集まり会議を行うように配置した。



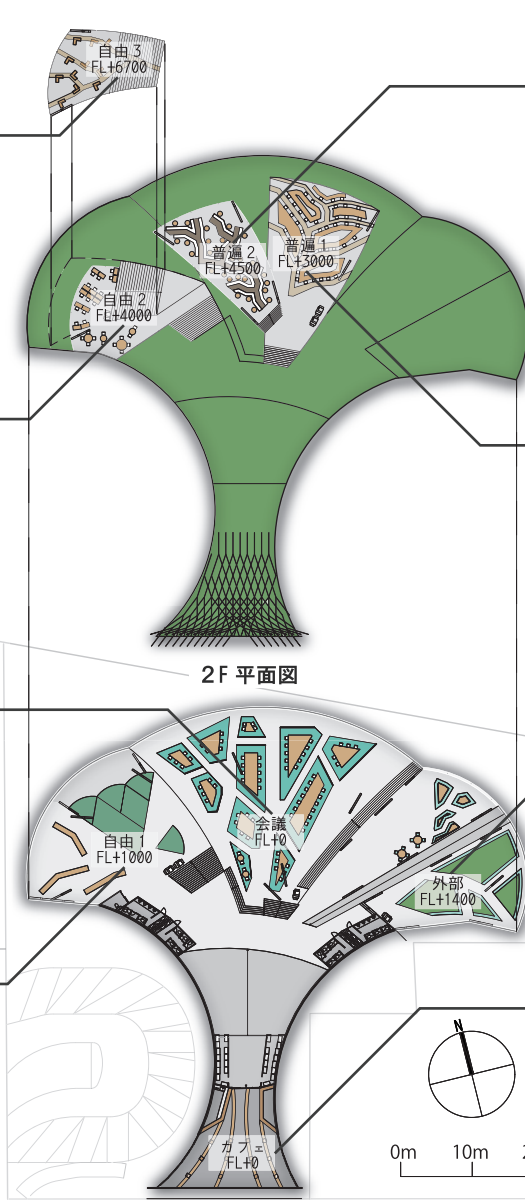
外部

外部空間である公園に近い環境を模した空間。
主に作業や休憩ができる屋内緑化空間。
日当たりが良く会議の待機場所としても利用できる。



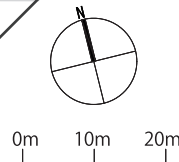
自由1

小上がりの座敷を配置した空間。
寝転んでの作業や胡坐での作業が可能。
車椅子の利用者も作業できるデスクも配置している。



2F 平面図

1F 平面図



カフェ

利用者や近隣住民がまず初めに入る空間。
根を模した椅子や装飾があり利用者は内部へ流れ、近隣住民は一般的なカフェとして利用できる。

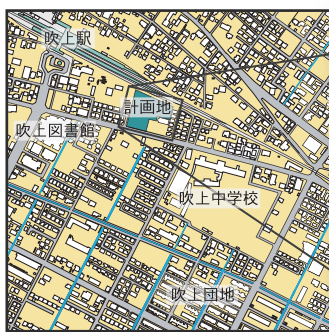


南立面図



西立面図

敷地



敷地面積 5973 m²

コンセプト



倒したケヤキ



五つの枝